

<小学生の部>

最 優 秀

「理解し合うということ」

都留市立東桂小学校五年 飯山 瑛映

去年の夏、レベッカさんが私の家に来ました。レベッカさんはアメリカ人で、学校の先生をしています。三年前、姉妹都市交流の訪問団として、去年は姉妹校交流の生徒引率として、日本に来ました。

三年前レベッカさんが来た時、私はまだ三年生でした。とても緊張して、レベッカさんから逃げてばかりいました。しかし、姉は英語が好きで小学生の時アメリカに行った経験もあるので、レベッカさんに日本のことを教えてあげたり、レベッカさんと私たち家族の間で通訳をしてくれました。

この時レベッカさんと過ごしたのは4日間でしたが、一緒に生活しておどろくことがいろいろありました。玄関でくつをぬぐのを忘れてしまったり、寝る前にお風呂に入らなかったり、ご飯の時茶わんを持たなかったり。口に合わないおかずを食べなかったり、いやなことは顔に出したり、口に出したりするのにも、おどろきました。

レベッカさんには、私より年下の娘がいます。そのためか、レベッカさんは私にとってもやさしく接してくれました。でも、仲良くなる前にレベッカさんはアメリカに帰ってしまいました。

二年後、私は四年生になりました。ある日お母さんが、「レベッカさんが、また来るよ。しかも今度は二週間。」と言いました。また会えるなんて思っていなかったのですが、私はとても嬉しかったです。今度は、もっと仲良くなりたい、と思いました。

七月、レベッカさんがやってきました。私は少しきん張していましたが、レベッカさんは、ギュッと私を抱きしめてくれました。これが、アメリカ人のあいさつなんだな、と思いました。今度は二週間、お父さんもお母さんも仕事があり、お姉ちゃんたちは学校や塾で忙しかったので、私とレベッカさんが一緒にすごすことが多かったです。私はがんばって英語でレベッカさんに話しかけました。一緒に犬の散歩をしたり、トランプやオセロ、しょうぎもしました。雨上がりに一緒に見た虹は、とてもきれいで、「きれい」と感じる気持ちは同じなんだな、と思いました。七夕かざりも一緒に作りました。レベッカさんはひらがな表を出して、「読み方を教えてほしい。」と言いました。レベッカさんも、

日本を知ろう努力していることが分かりました。休みの日は、みんなで出かけたり、ギョウザ作りもしました。レベッカさんはギョウザと牛どんと桃がお気に入りでした。

こうして、レベッカさんと過ごした二週間は、あっという間に過ぎました。最後の日の朝、みんなで写真をとりました。私は別れがさみしくて仕方なかったのに、レベッカさんはずっと笑顔のままでした。見送りに行っても、バスが出発しても、笑顔のまま、これがアメリカ人のお別れの仕方なのかな、と思いました。

家にもどると、レベッカさんが使っていた部屋は空っぽで、使っていた机の上に、四つのふうとうが置いてありました。レベッカさんは、家族一人一人に手紙を残してくれたのです。ふうとうには「友」と漢字で書いてありました。私は、レベッカさんと「友」になれたんだ、と思いました。言葉もちがう、生活習慣もちがう人だけれど、おたがいが相手のことを知りたい、理解したいと努力したから、仲良くなれたんだと思います。

私は今、英語で書かれたレベッカさんの手紙と、レベッカさんにもらった本を読んで理解できるように、英語を勉強しています。そして、いつか、私がレベッカさんに会いにアメリカに行きたいと思っています。英語で通じ会えるようになった私を見たら、きっとレベッカさんは喜んでくれると思います。レベッカさんと再会できる日を楽しみにしています。